

2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年1月31日

上場会社名 エスピー食品株式会社

上場取引所 東

コード番号 2805 URL <https://www.sbfoods.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小形 博行

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理サポートグループ担当 (氏名) 山崎 崇弘
兼 経営管理室長

TEL 03-3668-0551

四半期報告書提出予定日 2020年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	113,391	0.7	6,893	1.7	6,788	0.2	5,703	51.6
2019年3月期第3四半期	112,566	2.1	6,781	5.3	6,772	6.3	3,762	9.4

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 5,875百万円 (88.3%) 2019年3月期第3四半期 3,119百万円 (39.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	449.06	—
2019年3月期第3四半期	296.24	—

2018年12月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合とする株式分割を実施いたしました。「1株当たり四半期純利益」は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	130,114	48,963	37.6
2019年3月期	109,532	43,622	39.8

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 48,963百万円 2019年3月期 43,622百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	40.00	—	20.00	—
2020年3月期	—	22.00	—		
2020年3月期(予想)				22.00	44.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2018年12月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合とする株式分割を実施いたしました。2019年3月期第2四半期末については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。また、2019年3月期の年間配当金の合計については単純合計ができないため、「-」としております。

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	145,000	0.1	7,200	0.6	7,100	0.4	5,200	20.4	409.43

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	13,954,234 株	2019年3月期	13,954,234 株
期末自己株式数	2020年3月期3Q	1,253,802 株	2019年3月期	1,253,750 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	12,700,461 株	2019年3月期3Q	12,700,745 株

2018年12月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合とする株式分割を実施いたしました。発行済株式数(普通株式)は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び合理的と判断される前提に基づくものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は今後様々な要因によって異なる場合があります。上記業績予想に関する事項につきましては、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報)	7
3. 補足情報	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が続くなど、緩やかな回復基調で推移したものの、米中貿易摩擦の長期化や英国のEU離脱の動向などによる海外経済の不確実性の高まりなど、先行きは依然として不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、将来への不安を背景としたお客様の節約志向に加え、ライフスタイルの変化に伴う行動の多様化や市場構造の変化への対応が求められるとともに、人手不足を背景とした人件費や物流費の上昇など、引き続き厳しい経営環境となりました。

このような状況のなかで、当社及び連結子会社は、企業理念・ビジョンのもと、中期経営計画に基づき、スパイスとハーブを核とした事業活動を推進してまいりました。

おいしさの追求はもちろんのこと、高い品質と新たな価値を創出し、お客様の健やかな暮らしに役立つ製品を生み出すため、お客様視点での製品施策や、これを実現するための生産体制の整備を進めるとともに、全社一体となったマーケティング活動に取り組むことで売上高と利益の拡大を目指してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、食料品事業において香辛調味料グループが伸びいたしますとともに、主力製品を中心に堅調に推移いたしましたことなどから、前年同期比8億24百万円増の1,133億91百万円（前年同期比0.7%増）となりました。利益面では、販売促進費や広告宣伝費は増加しましたものの、これらの積極的なプロモーション活動により売上高が増加したことに加え、引き続き原価低減に努めたことなどから、営業利益は前年同期比1億11百万円増の68億93百万円（同1.7%増）、経常利益は前年同期比16百万円増の67億88百万円（同0.2%増）となりました。なお、調理済食品におきまして、前第3四半期に減損損失を特別損失として計上したことや、当期の第2四半期に一部工場を事業譲渡し特別利益を計上したことなどから、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比19億40百万円増の57億3百万円（同51.6%増）となりました。

セグメント別の業績は、以下の通りであります。

なお、各セグメントの売上高は、セグメント間内部売上高消去後の数値を記載しております。

セグメント及び製品区分別の連結売上高の詳細につきましては、8ページ「3. 補足情報」をご参照ください。

(1) 食料品事業

売上高は、前年同期比23億50百万円増の1,002億58百万円（同2.4%増）となりました。セグメント利益（営業利益）は前年同期比2億93百万円減の68億56百万円（同4.1%減）となりました。

(2) 調理済食品

売上高は、前年同期比15億25百万円減の131億32百万円（同10.4%減）となりました。セグメント利益（営業利益）は6百万円（前年同期はセグメント損失3億99百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末と比較して205億82百万円増加し、1,301億14百万円となりました。これは主に、有形固定資産の増加88億9百万円、売上債権の増加69億79百万円などがあったことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比較して152億40百万円増加し、811億50百万円となりました。これは主に、借入金の増加114億16百万円などがあったことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比較して53億41百万円増加し、489億63百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加51億69百万円などがあったことによるものであります。この結果、自己資本比率は37.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績は、概ね計画通りに推移いたしましたことから、2019年10月31日に発表いたしました通期の連結業績予想につきまして、変更を行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,007	22,519
受取手形及び売掛金	28,431	35,411
商品及び製品	6,847	6,512
仕掛品	1,883	1,915
原材料及び貯蔵品	5,800	6,214
その他	944	903
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	62,915	73,477
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	11,740	18,359
機械装置及び運搬具（純額）	6,555	9,795
土地	8,831	10,215
その他（純額）	6,477	4,043
有形固定資産合計	33,604	42,413
無形固定資産	847	849
投資その他の資産		
投資有価証券	6,785	6,975
退職給付に係る資産	—	113
その他	5,799	6,704
貸倒引当金	△420	△420
投資その他の資産合計	12,165	13,373
固定資産合計	46,616	56,636
資産合計	109,532	130,114

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年 3 月31日)	当第 3 四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,266	12,448
短期借入金	21,119	29,512
未払金	10,854	11,346
未払法人税等	48	1,355
賞与引当金	1,253	667
資産除去債務	1	1
その他	3,790	5,221
流動負債合計	47,334	60,553
固定負債		
長期借入金	9,391	12,415
債務保証損失引当金	805	443
退職給付に係る負債	6,330	6,106
資産除去債務	186	146
その他	1,862	1,486
固定負債合計	18,575	20,597
負債合計	65,910	81,150
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,744	1,744
資本剰余金	5,337	5,337
利益剰余金	36,677	41,847
自己株式	△2,931	△2,931
株主資本合計	40,827	45,997
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,189	2,332
土地再評価差額金	862	862
為替換算調整勘定	14	6
退職給付に係る調整累計額	△272	△235
その他の包括利益累計額合計	2,794	2,966
純資産合計	43,622	48,963
負債純資産合計	109,532	130,114

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	112,566	113,391
売上原価	64,299	63,288
売上総利益	48,267	50,102
販売費及び一般管理費		
販売促進費	24,899	26,110
その他	16,585	17,098
販売費及び一般管理費合計	41,485	43,208
営業利益	6,781	6,893
営業外収益		
受取利息	1	4
受取配当金	174	189
不動産賃貸料	30	31
為替差益	22	—
その他	158	134
営業外収益合計	387	360
営業外費用		
支払利息	377	374
為替差損	—	4
その他	19	86
営業外費用合計	397	465
経常利益	6,772	6,788
特別利益		
貸倒引当金戻入額	870	—
債務保証損失引当金戻入額	—	362
事業譲渡益	—	473
その他	114	62
特別利益合計	984	898
特別損失		
固定資産売却損	0	76
固定資産除却損	178	31
減損損失	1,673	0
債務保証損失引当金繰入額	870	—
その他	210	0
特別損失合計	2,932	109
税金等調整前四半期純利益	4,824	7,577
法人税、住民税及び事業税	1,962	1,801
法人税等調整額	△900	72
法人税等合計	1,061	1,874
四半期純利益	3,762	5,703
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,762	5,703

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
四半期純利益	3,762	5,703
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△714	142
為替換算調整勘定	26	△8
退職給付に係る調整額	45	37
その他の包括利益合計	△643	171
四半期包括利益	3,119	5,875
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,119	5,875
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	食料品事業	調理済食品	計		
売上高					
外部顧客への売上高	97,907	14,658	112,566	—	112,566
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	97,907	14,658	112,566	—	112,566
セグメント利益又は 損失(△)	7,149	△399	6,750	30	6,781

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額30百万円は、セグメント間取引消去30百万円であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「調理済食品」セグメントにおいて、現在の事業環境及び将来の収益見込み等を勘案した結果、回収可能価額が帳簿価額を下回っている岩手工場の保有する固定資産について、減損損失を計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては16億70百万円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	食料品事業	調理済食品	計		
売上高					
外部顧客への売上高	100,258	13,132	113,391	—	113,391
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	100,258	13,132	113,391	—	113,391
セグメント利益又は 損失(△)	6,856	6	6,862	30	6,893

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額30百万円は、セグメント間取引消去30百万円であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 補足情報

セグメント及び製品区分別連結売上高

当第3四半期連結累計期間におけるセグメント及び製品区分別の連結売上高は以下の通りであります。

(単位：百万円)

セグメント及び製品区分	前第3四半期 (累計)	当第3四半期 (累計)	増減額	増減の主な要因
食料品事業	97,907	100,258	2,350	
スパイス&ハーブ	20,394	20,608	214	洋風スパイス、シーズニングスパイス (増加)
即席	25,926	25,923	△3	即席ハヤシ (減少)
香辛調味料	28,358	30,114	1,755	チューブ製品、中華製品 (増加)
インスタント食品その他	23,228	23,612	383	レトルトカレー (増加)
調理済食品	14,658	13,132	△1,525	一部工場の事業譲渡 (減少)
計	112,566	113,391	824	